

東日本大震災と津波そして原発事故。かつてない被害をもたらした 2011 年 3 月 11 日。今も安心とはほど遠い暮らしを余儀なくされている被災者が少なくありません。戦後最悪の自然災害となって 11 年。東京電力福島第一原発事故によって今もほとんど避難指示が解除されていない帰還困難区域が県内 7 市町村に残り避難者は全国に 3 万 8 千人と言われています。また、コロナ禍は住宅、医療、水産等々、被災地の復興や被災者の生活にも大きな影響を与えています。復興はまだまだ道半ばです。

【福島地域】西口保育園

千葉県内の新型コロナウィルスの感染者数は減少傾向にありますが、柏市内の保育園では現在(3/15)も毎日3～5 園の新規休園が出ています。そのような状況下、西口保育園でも保護者などに感染者は数家庭ありますが、園児・職員が発熱などでPCR検査を受けても幸い陽性は出ておらず一度も休園には至っておりません。

コロナ禍で制約が多いですが、子どもたちにはできる限り平常通りの保育を心がけています。天気の良い日は散歩に行くなど、園内が密にならないよう工夫しながら保育環境を整えています。

今年度も年長交流はできませんでしたが、保護者からの要望もあり春秋冬と 3 回、自園の年長児だけでの合宿は行いました。自然の家では他団体の利用がなく貸切状態でした。

今年度は西口にとって大きな出来事。共同保育所(無認可時代)に 30 年間使用していた建物を取り壊すことになり、卒園した子や保護者をはじめ関係者で園舎の“さよなら会”を 3 日間にわたり行いました。旧園舎の壁一面に歴代の年長児が描いた水彩画を飾り、その準備には大人になった卒園児たちが中心となり学校や仕事が終わってから駆けつけてくれました。

訪れた人たちは建物だけでなく、自分の描いた絵を前にして数十分間みつめたり、久しぶりに会いたい友だちを朝から夕方まで待ち続ける子、保護者同士が苦労話や笑い話に花を咲かせたり、懐かしさと感動を味わいました。齋藤公子先生も訪れたことのある思い出の場所はなくなっていますが、大切な心の財産となって残ると確信できました。

〈 年長合宿での登山 〉



〈 花野井園舎にて 〉



【青森・岩手3園の現在の状況】

① ひなた保育園(青森県青森市)

1～2月にかけてコロナ感染で休園する市内の保育園が増え、自園も 2 月始めに一部休園しましたが、現在は落ち着いてきています。全体では2月後半の冬晴れの日に雪上運動会を0歳児から5歳児で楽しみました。

年長はスケート教室は中止になりましたが、雪山でスキーを楽しんだり、まり、コマ、竹踊りに取り組んでいます。先日白鳥見学に行ってきたが、水彩に白鳥の姿を描く子もいて、じっくりと描く姿が見られるようになってきました。今後は、卒園遠足で水族館に行く予定になっています。

② 是川保育園(青森県八戸市)

11～12 月上旬、市内のコロナ感染者数が増え、休園の保育園が数ヶ所出ました。年末落ち着いてきましたが、1 月中旬から市内で休園、一部休園の状況が現在も続いています。自園も園児や職員の家族の感染や、検査結果待ちで休んでいる園児や職員がいて日々綱渡り状態です。2 月は胃腸炎での休みもあり、今落ち着き始めました。

1～2 月は例年になく雪が多く雪遊びを楽しみました。2 月末の参観日は、中止となりましたが、午後の学習会にむけて父母会でまとめてくれた”コロナ禍の子育て“のアンケート結果や、介護や病院、学校現場で働く保護者の現場状況、実際にコロナ感染や検査を受けた家庭の様子などをまとめてくれました。職員は先に届いた広木先生の冊子を手に皆で再度 DVD を観たり、休みを補い合いながら年度末の保育を進めています。

③ 花巻太陽の子保育園(岩手県花巻市)

今年の冬は雪が多く、園近くの畑にできた雪山や園庭で沢山雪遊びを楽しむことが出来ています。

年明けから近辺のコロナ感染が急激に増え、年長の合宿は中止になり、学校の休校などで休みになる子も多かった中、やっと全員揃って活動できるようになったところです。年長は山から切ってきた枝を使ってコマ台を作ったり、水彩や竹馬、竹踊りに取り組んでいます。竹馬は乗れる子が増えてきて、より高い竹馬に挑戦したり、教え合いながら楽しんでいます。

<今年度の活動>

〔職員学習〕

今年度は前期と後期にそれぞれ 1 回ずつ部会を計画しました。

前期 7 月 10 日以上児部会(是川保育園) 後期 10 月 30 日以上児部会(ひなた保育園)

7 月 24 日未満児部会(ひなた保育園) 11 月 6 日未満児部会(是川保育園)

・各クラス担任が絵を持ち寄りながら保育や子ども達のことを久しぶりに会えた喜びも加わり話合うことが出来ました。後半にもう一度実施したかったが、コロナの感染状況が悪く行えなかった。

・3 園揃って集まらない状況の中、10 月 21 日(ひなた保育園)10 月 22 日(是川保育園)1 月 14 日(花巻太陽の子保育園)に錦保育園の一村園長が来園し、午前中はリズム、午後は絵を見ながらの学習会の場を持つことが出来て力になりました。

〔年長交流保育〕

6 月 30 日 八甲田登山 11 月 15 日 リズム交流(是川保育園)

(ひなた・是川) (ひなた・是川)

11 月 25 日～26 日 リズム交流 1 泊(ひなた保育園)

(ひなた・是川)

・1～3 月にもう一度交流をしたかったが、オミクロン株感染拡大のため行うことが出来なかった。

2022 年 3 月

～ 石巻ひがし保育園 ～

12 月からリズムの中でスケートをすべく親たちをお願いしていた毛糸の靴下。色とりどりの可愛い靴下が出来上がりその靴下で年長たちはリズムのスケートを楽しんでいましたが、せっかくなら冬の時期しかできない本物のスケートを体験しようということで、年長たちはワクワクしながらスケートリンクへ出かけました。リズムと違い、初めての氷上スケートで立つこともできず、転んでばかりでした。2 時間以上滑るうちにどの子も立って、ある程度滑れるようになりました。“最後まで諦めなければどんな子もできるようになる” 子どもの力に改めて感心させられました。



～さくら保育園～

さくら保育園では、毎年年長児の保護者が卒園記念製作を行います。歴代の製作は、階段周り・ホール・1、2 階の廊下・各クラスの壁に腰板を製作したり、園庭にスコップや遊び道具をしまう物置小屋や棚を製作等、毎年子ども達が心地よく生活できるようにと保護者と一緒に作ってきました。

近年、さくら保育園は児童数も減少しつつあり、また今年の年長児は 7 名という事で、少人数での作業という事ではありましたが、2 月末に年長児のお父さん達が集まり卒園記念製作を行いました。今年はハンガーラックと雑巾をかけるラックを作る事になり、お父さん達は和気あいあいと約半日作業を行い完成させました。肌触りの良い木製の物は温かみもあり、とても使い勝手も良く、早速子ども達も喜んで使っています。毎年、年長児の保護者と子ども達が心地よく生活できる環境を一緒に考え製作してきました。今後も、保護者の皆さんと一緒にさくら保育園を作っていきたいと思います。



～げんき保育園～

5 名定員の無認可保育園から始まったげんき保育園。3 年目を迎えた今年度は、定員 60 名の認可保育園として新たなスタートをきることができました。子どもも大人も仲間が増えたことに喜びを感じながら生活した 1 年だったように思います。開園 1 年目ということで慌ただしく大変な毎日でしたが、「保育園、楽しい」と毎日げんきに登園してくる子供たちの姿に元気をもらい、子どもの変化に喜びを感じ伝えてくれる保護者の言葉に励まされました。今年度の年長児は 4 名と少なかったのですが、実践の仲間との交流や合宿などを通じて刺激をもらい、自己を主張したり、仲間にあこがれを持ち挑戦したりと、自園ではできない経験をたくさんすることができました。職員も大人集団の中で学びや支えをもらい、改めて仲間のいる有難さをを実感した 1 年となりました。

～石巻たから保育園～

コロナウイルスの感染下、年長児も全員出席する日が少ない中での、保育が続いていました。3 月に入り、11 名全員が出席した日に子ども達から、大好きなお話の“錦のなかの仙女”の貼り絵をやってみたいという声が出て、共同製作が始まりました。このお話に出てくるお母さんとお大事袋の刺繍をしてくれている自分たちのお母さんの姿が重なったようで、「○○のママと同じだ！」等とイメージを膨らませて取り組んでいました。11 人全員が意見を出し合って分担を決めて行い、4 日間かけて作り上げる事が出来ました。最後の錦のなかの村が、実際に広がる場面が出来上がった時は「こんな村に、住みたいよね！」と口々に言い、お話の歌を口ずさんで大喜びの子ども達でした。皆で力を合わせて作り上げる姿、4 日間イメージを出し合い集中して取り組む年長集団の力に、とても感動させられました。



～錦保育園～

3 月 3 日（木）～5 日（土）の二泊三日で岩手県の八幡平にて、年長児がスキー合宿をしました。当日は天候にも恵ま



依然としてコロナ渦ではありますが、これまでも、園と親たちとで話し合いを重ね、子どもたちの活動に理解を

～くるみの木保育園～

開園から 7 年目。卒業式は今年度で 5 回目になります。特に今年の卒園児は初めて 0 歳から 6 歳までくるみの木保育園で育った子どもたちがほとんどで、開園したばかりの事を思い出すと、私たち職員の子供達への思いもひとしおです。さくらさくらんぼの保育が登米市に少しでも広がり子どもたちが幸せになるようにとの理事長の熱い思いで建てられたくるみの木保育園ですが、まだまだ力不足で保護者の皆さんに伝えきれない所がたくさんあり、今回のコロナの問題でも保育が進められない事が何度かありましたが、これからも保護者の皆さんと学びを深めながら、子ども達の成長を喜び合える関係を作っていきたいと思っています。

2 枚の写真は、子どもたち一人ひとりが作った凧と 5 つのグループに分かれて相談し、みんなで作り上げた凧です。グループごとに作った凧は横幅 1 メートル以上あり、くるみの木保育園の前の田んぼで上げると、1 0 0 メートルぐらい上がるカイトです。卒園期になると子どもたちが一番楽しみにしていることです。

